

高齢者・認知症患者における 疼痛管理の包括的アプローチ – 身体・行動・画像の多角的評価の重要性 –

日本は高齢化社会となり、3600万人（人口の約29%）が65歳以上になります。

そのうち約8人に1人が認知症と診断される時代です。

一方、がんは60歳ごろから罹患率が上昇する傾向にあります。高齢のがん患者においては、認知症を併存することで自身の痛みを十分に伝えられず、適切な疼痛管理が困難となるという課題が生じています。

本講演では、がん性疼痛治療の第一人者として、これまで多くのがん患者の痛みと向き合ってこられた服部政治先生をお迎えし、認知症を有するがん患者に対する専門的な疼痛管理のアプローチについてご講演いただきます。



人数を把握した
いので参加申し
込みをお願いし
ます

中部徳洲会病院

疼痛治療科統括部長 服部政治先生



日時：3月7日（土）13：00～14：30

対象者：がん看護、緩和ケアに興味ある看護師

参加料：無料（非会員は初回限定）

ZOOM ID: 673 472 2877

パスコード: yoshi

主催：九州・沖縄高度実践看護師 がん看護代議員

問い合わせ先：名桜大学 看護学科 吉澤龍太 (r.yoshizawa@meio-u.ac.jp)